

I

図解「おうち暮らし」
— 医療機器を使って暮らすための停電時の備え

監修：川口有美子
文・イラスト：加藤福

街で自分の家で暮らすために

非常時の備え、どうする？

地震・台風・大雪など
災害時の備えについては
3月11日以降誰もが
強く意識するようになっ
たのではないだろうか。
では、私たちの毎日の生活に
欠くことのできない
サポート機器については
どうだろう…？



食べ物、薬、水などは
蓄えておける。でも、
電気はどうすれば？

電気が必要なものは大事な機器

呼吸器、吸引器、電動ベッド…
これらすべてが生きるために、
よりよく暮らすために必要だ。
そして処置の際に手元を
照らすライトのことも忘れては
ならない。



1 図解「おうち暮らし」

バッテリーの種類とメリット・デメリット

電気がこない時は
電池や発電機で
対応するしかない。
その方法は色々あり、
それぞれに特徴や
一長一短がある。

バッテリー

呼吸器メーカー純正バッテリー

○長時間もつ
呼吸器と接続が楽
×値段が高い
他機器に使えない

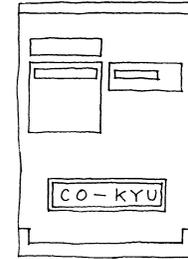
ポータブル電源

○安価
入手が容易
(ホームセンター等)
×長持ちしない

車のバッテリー

○安価
×接続が複雑

人工呼吸器内蔵バッテリー



○4~8時間使える

★避難所等へ移動の際
使おう。いわば最後の砦!

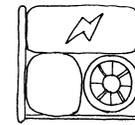
バッテリーの持続時間は、
経年変化でカタログ記載の
時間よりどんどん短くなるので
気をつけよう。定期チェックと、
こまめな充電を心がけて。

覚えておこう



発電機

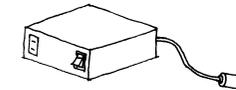
ガソリン発電機



ガソリンの備蓄が必要。
排ガス・騒音等の問題が
あるので、屋内には設置を
しないように。

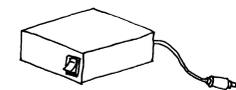
その他 接続用具

インバータ



電圧とプラグ形状の
変換をする。
車のバッテリーを使うとき
必要になる

シガーライター接続コード



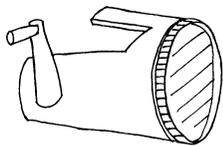
車のシガーソケットに挿して
電気を確保するコード
※呼吸器など精密機器を繋ぐと
不具合が生じる場合あり。要注意。

医療機器を使って暮らすための停電時の備え

停電発生!! そのときどうする?

ライトはとても大切

機器が動いても、真っ暗な部屋では正確な処置ができないし、患者もヘルパーも不安になる。ライトはわかりやすい所へ置いておこう。

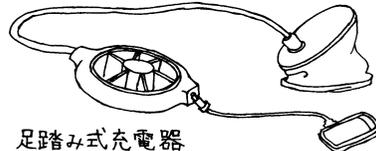


手まわし充電ライト
電池不要。
非常時には
心強い。



ソーラー充電式ランタン
吊るすなどして広い範囲を照らせる。

他にもあるこんな道具



足踏み式充電器
ポンプを踏んでファンを回し発電するしくみ。
携帯電話の充電などに向いている。

まず落ち着こう

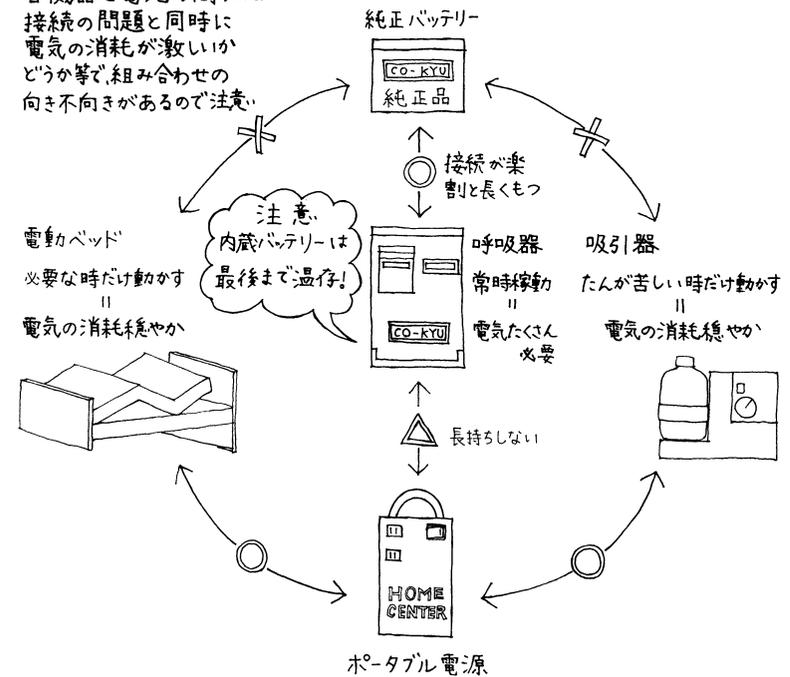
突然のトラブルには誰もが慌て、不安になる。
一度呼吸を整えて、患者に声をかけ安心させてあげよう。

ヘッドライトは
両手があいて便利
びっくりしたね
大丈夫?



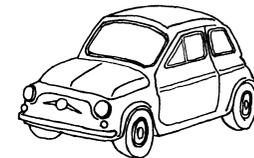
機器と電池の互換性関係図

各機器と電池の間には
接続の問題と同時に
電気の消耗が激しいか
どうか等々、組み合わせの
向き不向きがあるので注意。



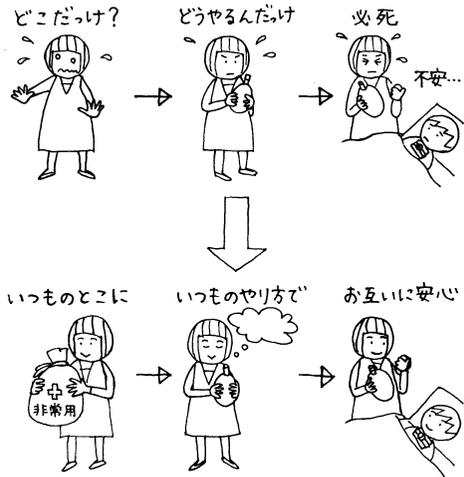
車から電源をとる方法

停電が長時間におよぶ場合は、
車から電源をとることも考える必要がある。
駐車場から室内までの引きこみには、
ドラム式延長コードが大活躍してくれる。



手動の器具に普段から慣れておこう

停電だけでなく機械の故障など、いざという時に使うアンビューバックと吸引器。どちらもすぐ取り出せて目につく所に置き、普段から慣れておくことが大切だ。呼吸器ユーザーにとっても、自分の呼吸のタイミングや強さと手動の器具の感覚が違うのは苦しいし、とても不安なもの。ヘルパーが自信をもち落ち着いて使用すれば、ユーザーにもそれが伝わり安心してもらえるだろう。



手動の器具 練習のコツ



アンビューバック

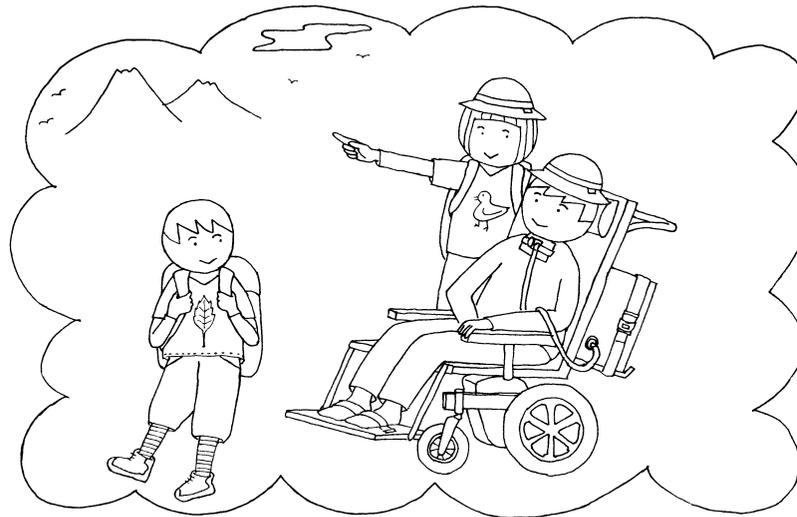
圧を確認して、どのくらいの強さで押したらよいのか、また何秒に1回押すかを体で覚えよう。非常時は焦りや緊張感から力いっぱい押しがちなので注意を。



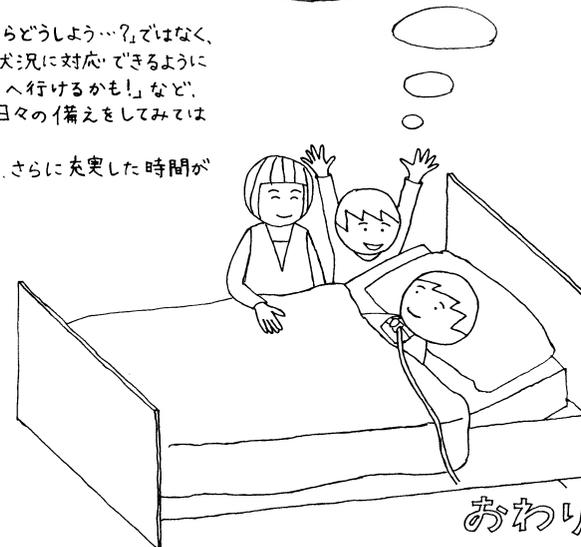
吸引器

コップに水を張って実際にやってみよう。手動式は吸圧が弱めなので、ユーザーはもの足りないと感じるかも。処置の時は声をかけて確認するとよい。

ポジティブに日々の備えを



「災害が突然起きたらどうしよう...?」ではなく、「訓練をしているような状況に対応できるようになれば家族で旅行へ行けるかも!」など、楽しいことを目標に日々の備えをしてみてもどうだろうか。きっと安心だけでなく、さらに充実した時間が得られることだろう。



監修: 川口有美子 (NPO法人 ALS/MND サポートセンター さくら会) 文・イラスト: 加藤 福